

検証保育・検証授業4 大城厚教諭（糸満市立真壁小学校）

7月10日(金)に予定されていた、糸満市立真壁小学校での前期教育研究員の大城厚教諭による小学校算数の検証授業は台風9号の影響で、去る7月13日(月)に変更して実施されました。

大城厚教諭の小学校4年算数の検証授業では、「図形」の領域で、正三角形や二等辺三角形のしきつめ図から、大きさや形のちがう台形や平行四辺形を見つけ、その平行な辺について確かめる操作活動を通して、台形と平行四辺形の理解を深めさせる授業でした。子ども達は、多様な台形や平行四辺形を見つけ、2つの三角定規を使って、平行な辺を確認していました。隣の子に平行な辺の確かめ方を教えてあげたり、自分のみつけた台形・平行四辺形を実物投影機を活用し、みんなの前で発表したり、一生懸命課題に取り組んでいる姿が印象的でした。

指導講師の城間修司教頭先生(玉城小学校教頭)からは、「算数は、演繹法、帰納法、類推することの3つの考えを基本に学習を進めてほしい。生活の中に繋がるようなことも取り上げてほしい。今日の授業の中には価値ある子ども達の姿が数多く見られたので、それを見逃すことなく分析してほしい。」等の指導助言をいただきました。また、「三角定規を使って平行な辺を調べる操作活動は、4年生にとっては難しいものだが、本学級の児童はよくできていた。」等のお話もいただきました。

検証授業研究会の中では、「45分完結授業を行うために、指導するところと子どもが活動するところをどのように設定するか。授業ごとに評価・検討をおこない授業改善を行なうことと何のための学習活動か、何を狙っているのかを考えて授業を計画することが大切である。チームティーチングにおいて、児童に力を付けさせるために2人がどう共通理解し、対応するか。」等が課題として挙げられました。

金城毅校長先生をはじめ、真壁小学校の先生方が熱心に授業参観なされていました。全校体制で厚先生の研究を支えてくださっていることが感じられる検証授業でした。

【研究テーマ】

〈小学校算数〉

図形領域における基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る指導方法の工夫
～操作・比較観察等の学習活動を通して～

【研究仮説】

算数科の図形領域において、比較させたり、考えさせたりする活動が行えるように教材プリントを工夫することで、児童が、図形についての理解を高め、基礎的・基本的な知識の定着を図ることができるであろう。



写真1 検証授業の様子



写真2 検証授業研究会にて



写真3 真壁小学校にて

検証授業を終えて（大城厚教諭）

今日の検証授業（本時）では時間配分が大きな課題として残りました。もっとねらいを絞り込む必要性を感じました。また、自分自身が発している発問も子ども達の様子をとらえた上で、吟味して行う必要性を実感しています。常にそれを意識することを忘れず取り組んでいきたいと考えています。

授業後、子どもの振り返りの記述を見てとても嬉しい気持ちになりました。研究することで、子ども達の学びは深まるのだと実感できました。10月から子どもたちと学習していくことがとても楽しみになってきました。

結びに指導計画の細やかな指導までしていただいた指導講師の城間修司教頭先生、毎時間の検証授業に指導助言していただいた上原雅志所長、協力してくださった真壁小学校の職員の皆さん、応援してくれた研究員の皆さんありがとうございました。